

## 勝山市の多文化共生社会の実現に向けた国際交流イベント等の実施

事業責任者：酒井 千裕（経営戦略課・主査／事務局企画力向上プロジェクトチーム  
・勝山グループリーダー）

概 要	本プロジェクトは、地域の課題解決に係る実践型プログラムを「教・職・学」により企画・実施し、多様なステークホルダーとの連携・交流を通して、主体的に課題解決に取り組むことを目的としている。その中で、人口に占める外国人労働者の割合が増加している「福井県勝山市」において、外国人材の定着を見据えた多文化共生社会の実現を目指しており、その課題に対し勝山市と協働して取り組むものである。 令和4年度から活動を開始し、初年度は勝山市の外国人労働者に対するヒアリング調査、2年目には、前年度のヒアリング調査を踏まえた国際交流イベントの実施、3年目はイベントの継続のほか、情報伝達手段の企画・実装を行っている。
関連キーワード	勝山市、外国人労働者、多文化共生社会の実現、かつやま WakuWaku 文化フェスタ、福井大学事務局企画力向上プロジェクトチーム

### 事業の背景および目的

本プロジェクトは、地域の課題解決に係る実践型プログラムを「教・職・学」により企画・実施し、多様なステークホルダーとの連携・交流を通して、より深く多角的に地域を理解し、よりよい地域づくりに向け主体的に課題解決に取り組むことを目的としている。その中で、福井県勝山市においては、少子高齢化が進む一方で、近年、外国人労働者が増加傾向にあり、外国人材の定着が期待されている。そのため、勝山市においては「多文化共生社会<sup>\*</sup>」の実現を目指し、外国人住民が暮らしやすい環境づくりに係る取組を行っており、本学と勝山市が協働し、その課題解決に向け取り組んでいる。なお、これらは勝山市総合行政審議会から提言され、第6次総合計画に掲げる、市としての重要施策である。

本取組の実施にあたっては、地域のニーズを丁寧にヒアリングし、密に相談・連携しつつ、地域の課題解決に真に必要な取組に対し、学生・教員・職員とが協働して取り組んでいる。その中で、学生においては自治体から強く要望のある若者ならではの新規性のあるアイデアから、教員においては教員の専門性の観点から、そして職員は、職員が強みとする調整力や管理運営の観点から、それぞれ個々の強みを活かしつつ、有機的に連携した活動を行っている。

※多文化共生社会：性別、年齢、障害の有無、国籍・文化的背景、性的指向・性自認などにかかわらず一人ひとりが違った個性や能力を持つ個人として尊重され、全ての人がともに思いやり、ともに責任を担いあう中で、誰もが能力を発揮し、参画・活躍できる社会

### 事業の内容および成果

本プロジェクトは令和4年度から活動を実施している。プロジェクトの立ち上げに先立ち、まずは外国人住民のニーズ調査を行うため、行政と本学とが協働し、外国人労働者へのヒアリングによる質的調査を実施した。対象者の年齢は20～30代が多く、普段、市役所の職員や企業と同僚には相談しづらい内容も、年齢の近い本学学生には本音を漏らす様子が見られ、もっと同世代の日本人と交流したい、祭りに参加したい、交通や病院など生活情報を入手するための支援が欲しいなど、情報伝達手段や日本人との交流機会等に係るニーズを確認した。その後、これらのニーズへの対応策を議論し、次年度以降の施策として勝山市の担当者へ提案を行ったところ、令和5年度からの市の施策として予算化された。

令和5年度は、前年度実施した調査結果等から得られた日本人との交流機会に係る課題への対応として、勝山市の行政や地域団体と連携し、地域イベントである「かつやま WakuWaku 文化フェスタ」において、外国人住民の出身国の文化をポスターや体験を通して紹介するブース出展等を行うなど多様な国際交流イベントを企画・実施した。

令和6年度は、前年度実施した国際交流イベントを継続実施するだけでなく、外国人住民にも当日スタッフとしてイベントに参画してもらい、来場者対応を通して日本人住民との交流機会に繋げる工夫を行った。その結果、外国人住民からはコミュニティの広がり満足する声が聞かれ、また来場者アンケートでも地域住民の多様性への理解度が向上していることを確認した。また、今年度はイベントに限らず、本学国際地域学部のPBL活動にも広げ、情報伝達手段としての動画制作の企画を開始し、令和7年度の実装に向け、勝山市と調整を行っている。

これまでの活動を踏まえ、勝山市からはさらに多様な活動の提案や協力要請を受けていることから、支援強化のため、令和7年度以降は地域の国際化の推進を目的とする学内組織「グローバル・エンゲージメント推進本部」に実施主体を移し、今後も勝山市の多文化共生社会の実現に向けた取組を発展的かつ継続的に支援していく。

### 参考文献・添付資料および特記事項等

添付資料（第6次勝山市総合計画、国際交流イベントの実施状況、各種アンケート結果等）

# 事業名称:勝山市の多文化共生社会の実現に向けた国際交流イベント等の実施

事業責任者:酒井 千裕(経営戦略課・主査/事務局企画力向上プロジェクトチーム)

## 目的

勝山市の外国人住民比率が増加していることを受け、少子高齢化・生産年齢人口減少の地域課題解決に向け、外国人材の定着に繋がる勝山市の多文化共生社会の実現に向けたまちづくり

## <活動の方向性>

### 令和4年度外国人住民ニーズ調査から得られた主な課題

- 移動手段
- 医療機関での診察等
- 災害時の情報伝達
- 日本人との交流不足

### 課題解決の手段(勝山市施策)

- 手段① 外国人労働者の実態を調査し(アンケート調査)課題を明確にする。
- 手段② 外国人と日本人の共通理解を図るため交流機会(イベントの開催など)を増やす。
- 手段③ 外国人に対する情報伝達手段を強化する。
- 手段④ 外国人と日本人を繋ぐ組織(市民主体)を立ち上げる。
- 手段⑤ 日頃から外国人と日本人が気軽に交流できる拠点を設置する。
- 手段⑥ 外国人が使いやすい移動手段を確保する。



	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度～(予定)
<b>【活動内容】</b>	ニーズ調査(外国人住民ヒアリング)	○国際交流イベントの実施【手段②】	○国際交流イベントの実施【手段②】 ○生活情報動画の制作(国際地域学部PBL)【手段③】	○国際交流イベントの実施【手段②】 ○生活情報動画の制作【手段③】 ○外国人と日本人の交流拠点の設置【手段⑤】  ○English Summer Clubの企画・運営 ○その他地域の国際化に係るもの  (※赤字・・・新規の取組(予定を含む))
<b>【実施主体】</b>		事務局企画力向上プロジェクトチーム (地域ニーズの掘り起こし、自治体との関係強化期間)		グローバル・エンゲージメント推進本部

令和6年度活動の様子



# 1. 第6次勝山市総合計画(抜粋)

(「基本的な考え方」より)



出典：総務省「国勢調査」(R2 まで)、第2期勝山市人口ビジョン(R12 以降)  
 注)R12 以降は、「人口動向分析・将来人口推計のための基礎データおよびワークシート(令和元年6月版)」による推計値

## 2 性別、年齢等にとられない多くの人の参画

### 現状

人口減少・少子高齢化にともない地域の担い手や労働者不足が予想され、性別や年齢、国籍、障害の有無などを問わない多様な人材の活用が求められています。またLGBT\*等の性的マイノリティ\*の方に対する理解など、全ての人々の様々な人権が尊重される社会の形成が求められています。

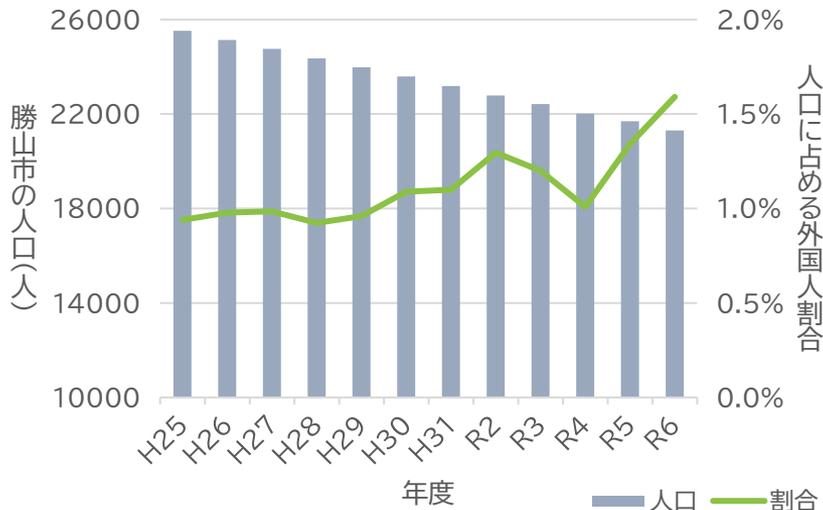
### 課題

地域の担い手や労働者が不足する中、性別や年齢、国籍、障害の有無などを問わず、多くの人が活躍できる社会を実現するため、人権問題について市民や事業者などが自らの課題として関心を持ち、理解を深める必要があります。

### 方針

全ての人がお互いの人権を尊重し、支え合いながら地域で活躍できる社会の実現に向けて、人権教育・啓発に取り組みます。今後、市内で生活する外国人に対応し、多文化共生\*を進めるため、相談体制の強化、外国語による生活情報等の提供に取り組みます。そして若者、高齢者等をはじめ多様な人々がお互いに歩み寄り、地域や企業でそれぞれの役割をもって活躍できる社会をつくります。

## 2. 勝山市の現状(勝山市の人口・人口に占める外国人割合)



## 3. 外国人住民へのヒアリングに基づく手段・方向性・方針

### 3.手段・方向性・今後の方針

外国人が暮らしやすい環境をつくる

【課題】※外国人材を雇用している事業所に聞き取り

- 移動手段 ○医療機関での診察等 ○災害時の情報伝達 ○日本人との交流不足など

- 外国人労働者の実態を調査し(アンケート調査)課題を明確にする。→R5 アンケート調査実施
- 外国人と日本人の共通理解を図るため交流機会(イベントの開催など)を増やす。→R5 より強化
- 外国人に対する情報伝達手段を強化する。→多言語対応(防災 LINE)、R6 福井大学と検討
- 外国人と日本人を繋ぐ組織(市民主体)を立ち上げる。→R5 より市民団体活動開始
- 日頃から外国人と日本人が気軽に交流できる拠点を設置する。→検討中
- 外国人が使いやすい移動手段を確保する。→市内公共バスのフルデマンド化

## 4. 国際交流イベントの実施(国際交流員との協カイベント、かつやまWakuWaku文化フェスタ)

<10月6日(日) 村岡山登山イベント>

チラシ→



←当日の様子



ピーターと  
福井大学生  
と一緒に

### 村岡山で 楽しみましょう!

村岡山を登って、  
山頂でピクニックや遊びをしましょう!

山頂で美味しい  
プレゼント  
あり!

👉ハイキング、運動が好き

👉秋を感じたい

👉子どもから大人まで誰でも

対象：小学生以上（先着20名）  
※小学生は要付き添い

場所：村岡山登山口駐車場 →  
911-0035 福井県鯖江市郡町2丁目9

日時：10/6(日)  
11時集合、14時頃解散

持ち物：お弁当・飲み物・  
レジャーシート  
歩きやすい靴や服装でご参加ください。

参加費：1人1000円（保険料）

申込：グーグルフォーム →  
10/3(木)まで

雨天中止となりますので、その場合は、  
前日連絡させていただきます。

担当： 鯖山市未来創造課 ピーター・ウォレス  
お問合せ： TEL 0779-88-1115 Email mirai@city.katsuyama.lg.jp

<11月3日(日) かつやまWakuWaku文化フェスタ>

**【文化交流体験ブースの出展】**

外国人住民出身の6ヶ国について、衣・食・住・遊びに関わる各国の文化を、パネルの展示・ワークショップを通じて紹介。

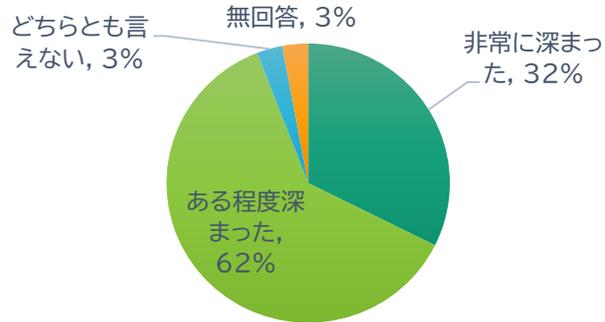
- 中国：  
ビン(食)の体験
- ベトナム：  
チャー(食)の体験、アオザイ(衣)、  
伝統的なおもちゃ(遊び)の展示
- インドネシア：  
ノナ・マニスやアボカドジュース(食)の体験
- ミャンマー：  
ロンジー(衣)の展示、タナカ(住)の体験
- インド：  
チャイやスパイス(食)の体験、サリー・クルタ(衣)の展示
- ブラジル：  
バタタケンチ(遊び)の体験、  
コーヒー豆挽き・試飲(食)の体験



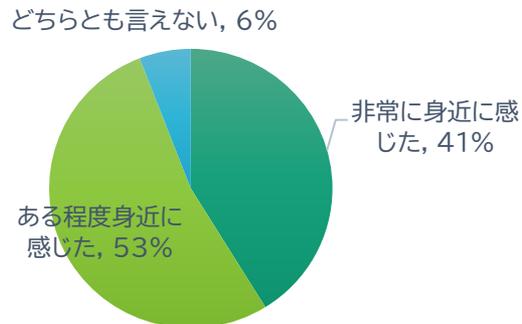
## 5. 各種アンケート調査結果

かつやまWakuWaku文化フェスタ2024  
来場者アンケート結果(関連部分抜粋)

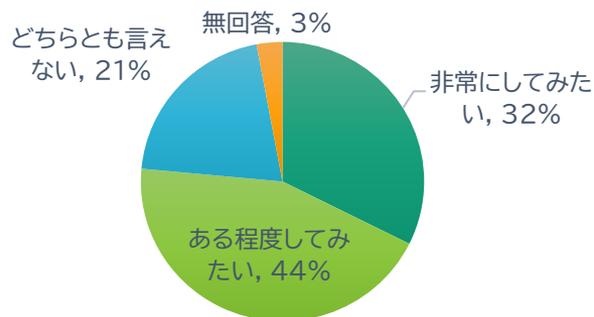
○今回の体験を通して、それぞれの国の文化についての理解が深まりましたか？



○今回の体験やそれぞれの国の人々との交流を通して、各国の人々を身近に感じるようになりましたか？



○今後国際関連(国際交流、多文化共生)のイベントに参加してみたいですか？

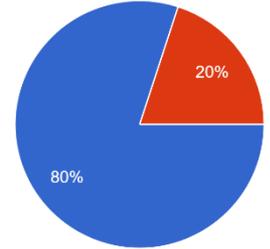


かつやまWakuWaku文化フェスタ2024  
参加学生アンケート結果(関連部分抜粋)

◎福大グローバル・リーダーシップ・プログラム(GLP)(※)の活動目的に即した調査項目に加え、地域への安着心を測定する項目により検証

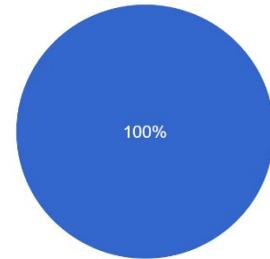
### 1.【語学・コミュニケーション】

- ・外国語を習得して使用する能力
- ・外国語を使い、自分の伝えたいことを正確に伝達できる能力
- ・対人的なやりとりにおいて意思疎通、協調性、自己表現するための能力

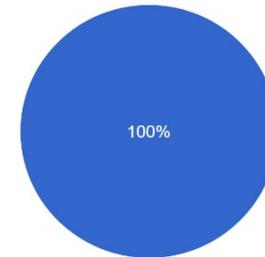


### 2.【国際教養】

- ・世界の広範な事象に関する幅広い知識と深い理解、物事の本質を見抜く洞察力や思考力を身に付け、グローバルな視野をもつ
- ・異文化のみならず自身を取り巻く文化をも理解し、自身と他者の立場を客観的に、かつ共感をもって把握する能力

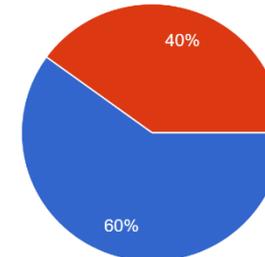


- ### 3.【異文化適応(留学・海外研修等)】
- ・考えや理論に基づいて目的を設定し、それを実際に行動に移す力
  - ・ボランティア活動などにおいて異文化へ適応する力



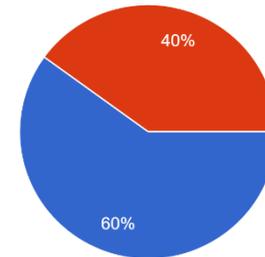
### 4.【実践・貢献】

- ・考えや理論に基づいて目的を設定し、それを実際に行動に移す力
- ・本学や地域社会・地域企業のために役立つ活動



### 5.地域への多角的な理解や愛着

- ・地域の課題や取組に対する理解
- ・地域の人とのつながりや地域をより良くしていきたいという気持ち



(※)勝山市の取組においては、GLPに位置づけており、GLPの養成人材スキルに準じた測定項目としている。

- 1. とてもそう思う
- 2. まあそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. 全くそうは思わない
- 5. わからない